



巻頭挨拶

「絆を深め…」 新たな 松楠会活動に 期待



松楠会会長
岩島 卓男

過日、5月16日(土)に支部代表者等による平成27年度松楠会理事会並びに同基金理事会を、また、6月6日(土)には松楠会評議員会(総会)を開催して、今年度の会務の運営や課題等についてご協議いただきました。

松楠会活動がややもすると熟年OB会員に偏って若年・現役会員の参画が少なくなる現状の改善について、各支部の事情も異なり思うようには捗っていないようです。今年度は「若年会員活性化事業」として新たに活動奨励金を設け、支部活動等においても若年会員活動に積極的に取り組めるよう一体的に…配慮することとしました。

平成27年度新規事業 若年会員活性化事業 ※①②は新規、③は既実施中

①各支部若年会員活動奨励費

……………支部活動の一環とした若年会員の自主活動

②あすなろ会活動支援費

……………松楠会若年会員への事務局(大学)支援による活動

③教職自主サークルによる先輩(若年会員)との交流会

……………学生への松楠会(若年会員)支援

松楠会(支部)活動については、総会(運営費)と活動(事業費)を分けて考えること、対費用効果を考え事業を工夫すること、若年や中堅・現役会員が主体となれる活動を重視していくこと等々で…松楠会全体の活性化を推進していきたいものと考えています。

■ 最後になりましたが、教育学部教育実践総合センター／松楠会共催「研究交流・公開講演会」が2月7日(土)、115名の参加者を得て開催できました。懇親会でも大学サイドとの交流、参加の学生たちにも松楠会への意識を深めていただきました。

今年度も8月1日(土)開催、企画を進めております。ぜひご参加ください。

わが松楠会を熟成させ、同窓の絆を後輩に引き継いでいきたいと願っています。過去を懐かしみ、明日を想う源、母校の充実を支える同窓の絆づくりに……今後とも一層のご支援とご協力をいただけますよう衷心よりお願い申し上げます。

「温故知新」の精神で「活気と夢のある」母校を

香川大学教育学部長・教育学研究科長 **山神 眞一**
(教育・昭和55年卒)



松楠会の皆様には、日頃より母校へのご理解とご支援を頂き、誠にありがとうございます。平成27年度を迎えて、学部の現状と今後についてご報告させていただきます。

まず、平成27年度の方針として『『教職員一丸』となって『活気と夢のある』教育学部・教育学研究科・附属学校園を創る』を掲げました。そして、「着眼大局・着手小局」に則った運営に務め、学部・大学院改革を着実に推進し、学部・大学院のさらなる発展を目指すことを謳いました。

教育学部・教育学研究科改革に関して平成27年度実施となった事項は、大きくは以下の3つです。

1. 学校教育教員養成課程の学生定員増(130名から160名へ)
2. 附属教育実践総合センターから附属教職支援開発センターへの改組
3. 教育学研究科の改組(教科教育専攻の大括り化・教職大学院設置)の申請結果待ち

学校教育教員養成課程の学生定員増に伴い、校種毎のコース制(幼児教育コース・小学校教育コース・中学校教育コース)とし、特に小学校教育コース(学生定員105名)を強化しました。大学院に関しては、平成28年度改組を目指して、専攻を学校教育専攻、教科教育専攻、学

校臨床心理専攻の3つにし、既設の教科教育専攻をいくつかの専修を合わせた大括り化(言語系教育コース、社会・生活系コース、理数・情報系コース、芸術・スポーツ系コース)、及び日本語教育の分野としての新設を予定しています。また、平成28年度には、既設の改組と共に教職大学院(高度教職実践専攻：仮称)の新設を予定しています。学部においては平成27年度が、また、大学院については平成28年度が大きな節目になります。今後は、この節目を大切にしながら母校のさらなる発展のため尽力してまいります。

香川大学教育学部・教育学研究科は、松楠会の先輩方が築いて来られた歴史と伝統をしっかりと受け継ぎながら、時代に即応して新たな歩みを進めていきたいと考えております。

換言するならば、「温故知新」の精神で邁進し、「活気と夢のある」母校を目指します。そして、香川県を中心に地域から愛され、期待される香川大学教育学部・教育学研究科・附属学校園を関係者の総力を結集して創り上げていく所存です。

松楠会の皆様にはどうか今後とも母校を応援して頂きますようお願い申し上げます。

母校教員の異動

併 任

平成27年 4月1日	北林 雅洋	附属高松小学校長
	若井 健司	附属坂出小学校長・附属幼稚園長
	恵羅 修吉	附属特別支援学校長
	七條 正典	附属教職支援開発センター長(継続)

昇 任

平成27年 4月1日	教授	永尾 智
	教授	藤元 恭子
	教授	山岸 知幸
	准教授	池田 恭哉
	准教授	中島栄美子

退 職

平成27年 3月31日	教授(定年)	磯田 誠	H27.4.1付け名誉教授
	教授(定年)	田中 健二	H27.4.1付け名誉教授
	教授(定年)	藤田 和憲	H27.4.1付け名誉教授
	教授(定年)	藪添 隆一	
	准教授	池西 郁広	交流人事教員 高松市立牟礼南小学校校長
	准教授	田中 聡	

採 用

平成27年 4月1日	准教授	鈴木 正行	浜松市立入野中学校教諭から
	准教授	高野 啓児	明石工業高等専門学校准教授から
	准教授	藤 博之	中国清華大学数学科学中心准教授から
	准教授	橋本 忠行	札幌学院大学人文学部准教授から
	准教授	山本木ノ実	香川県教育センター主任指導主事から
	准教授	田崎伸一郎	交流人事教員 三木町立田中小学校教頭から
	特命教授(継続)	池田 清史	
	特命教授	植村 典昭	
	特命教授	田中 健二	
	特命教授	谷川 博史	
	特命准教授(継続)	貞廣美津子	
	特命准教授	多田俊二郎	
	特命准教授	長谷川 諒	
	特命准教授	松岡みち子	

称号付与

平成27年 4月1日	附属教職支援開発センター客員教授(継続)	松井 保
	附属教職支援開発センター客員教授(継続)	藤本 泰雄
	附属教職支援開発センター客員教授(継続)	山内 秀則
	学校臨床心理専攻客員准教授(新規)	片山 綾子
	名誉教授	繪内 利啓

訃 報

植松 辰美 (名誉教授・元松楠会会長・理事長) 平成26年11月23日 ご逝去
伊賀 秀範 (元副会長) 平成26年11月1日 ご逝去

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。



新たな試みとして、研究交流会・公開講演会が、香川大学教育学部附属教育実践総合センターと松楠会との共催として、平成27年2月7日に新施設のオーリーブ・スクエアで開催されました。当日は、満席状態となり大盛況でした。シンポジウムに先立ち、「はじめまして交流」として、参加者が互いに交流する場面が設けられて、笑顔があふれ楽しい会話の機会となっていたようです。

シンポジウム1では、「香川の魅力を歴史から」と題して、特に『新版 香川の歴史ものがたり』の内容や執筆での苦労話も交えて、シンポジストから多彩な話題が提供され、フロアーからの質問や郷土香川の魅力に関して意見等も活発に出されました。



シンポジウム2では、「道徳の教科化をめぐって～若年教員の道徳授業力向上～」と題して、「道徳の教科化」に関して様々な視点から話題提供や質疑がなされ、新規採用教員の方も参加して熱心に聴く姿が印象的でした。

講演は、前香川県教育委員会教育長の細松英正様から、「すばらしき郷土香川の魅力と教育」と題して、香川の教育の現状に関して、大変広い視点と深い洞察力で分かりやすく整理して話をしていただきました。聴講者のアンケートからも大変高い満足感とともに、今回の企画に対して賞賛の声をいただきました。講演内容は、まず、教育長6年間の教育行政をふり返りながら、不易と流行や教育力評価の3要素などについてユーモアを交えて話されました。続いて、道徳についてのご自身の思いや新版『香川の歴史ものがたり』についての思いにもふれられました。各々の話題に関して、具体的な事例等を示しながら話されたので、参加者も香川の教育の現状や今後の課題に関して重要なポイントを伺うことができ、大変有意義な講演会となりました。

(植田和也)



平成26年度松楠会支援事業

だれのための支援活動

香川 孝典 (学芸・昭和32年卒)

竹細工で支援活動をしているとは言うが、竹細工の内容は一番簡単な竹トンボ(時には干支)作り。だが、実はこの活動を通して私自身が材料作りの楽しみや子どもたちとの触れ合いの楽しさを味わわせてもらっている。作業をしている時の子どもたちの表情。やり方は理解できても、馴れない作業に苦労しながらやっと完成。飛んだ時のうれしそう大声! などなど。子どもたちの素ほくでかわいい姿に接することが楽しい。

後日、児童からもらった感想文の一部を抜粋して紹介する。

- ◎竹トンボの作り方を…ありがとうございました。難しかったこと二つ…、一つ目はアルコールランプで竹を曲げる所…。火が熱くて…香川先生が手伝って…できました。二つ目は竹をナイフで切らずに…なかなかできなくて…先生が分かりやすく教え…、よく分かりました。…とてもよく飛びました。材料もいろいろ用意して下さいました。
- ◎簡単だなあと…いざやってみるととても難しかった…でも、できてうれしかったです。
- ◎昔の遊びもいい。自然に触れ合える…今度は家でもやりたいな。

小学校等への支援活動は、実は私自身への支援活動でもあると思っている。材料を準備する時間が楽しく過ごせると共に、それは手を使うことであり、頭脳の活性化でもある。また、道を歩いていると偶然出会った子どもたちから「竹トンボの先生!」と、声を掛けられることもうれしい。これらは支援活動をさせているおかげだから、これからも学校等への支援のみとは捉えず、自分自身の老化防止、認知症予防のための大きな支援活動でもあると捉えて頑張りたい。そして、続けられる限りこの活動に参加したいと考えている。



菊池寛に学ぶ演劇体験

六車 健 (教育・昭和52年卒)

定年退職前に新しい取組に挑戦することができたのも、ひとえに松楠会支援事業のお陰です。菊池寛の作品を小学生が演劇体験して地元で上演する活動により10万円の補助を受けました。

出し物は「蘭学事始」。オランダ語の医学書を翻訳した江戸時代の話で、「フルヘッヘンド」の話題は今も6年生の道徳で扱われています。菊池寛の原作によると、杉田玄白と前野良沢の目指す方向が異なり翻訳が行き詰まりかけた時、平賀源内が助け舟を出したというのです。菊池寛自身も困った時に助け舟が現れたそうです。花園小学校5年生を対象とした演劇体験でもいくつかの助け舟がありました。

まず、台本は旧四番丁小学校の「菊池寛まつり」で上演されたものを基にすることができました。演劇指導では、アマチュア劇団主催者が校区にお住まいで、児童に直接教えていただく機会がありました。苦労したのが衣装探し。古着屋を数軒回った末に偶然、新聞広告で古着バーゲンセールを発見。七五三の着物などを買い込み、いよいよ練習に拍車がかかりました。上演先は児童の希望を優先したところ、地元の高齢者施設3か所と幼稚園・保育所3か所が快く引き受けてくれました。高松市教育委員会が菊池寛の生き方に学ぶ「寛学(かんがく)」を重点活動に取り上げており、花園小学校の演劇体験も「ふるさと学習」として、夕方のTVニュースで紹介されました。演劇体験により児童が成長する様を目の当たりにし、私は退職後も地域の一員として子どもたちにかかわることができれば、と思った次第です。



転 退 職 教 員

より

意義深い9年間

儀田 誠



本年3月で定年退職いたしました。これまで9年間教育学部でお世話になりました。

小学校や中学校の教員養成という難しい部局に着任し、教育というものについていろいろと考える機会が持てたことを有難く思っています。それまでは、専門の物理学を理工系の学生に教える立場で、やるべきことは至って単純で、学生が系統性を持った理解ができるように説明することに尽きます。学生本人が努力しないと理解できるようにはならない。それに比して、初等中等教育の教員養成教育の持つ多面性とでも言うような難しさがあります。教師とは何ぞやということに還元されるのでしょうか。

一番分かり易い難しさは、教科の内容についてです。「物理現象を分析的に考える力はあるだろうか？」否、そこまでは要求しすぎだろう。彼らは、物理だけでなく、化学も生物も地学もやるのだから。小学校なら、国語も社会も。しかし、教科の内容については、目的地は明確です。沢山勉強すればするほど良いのですから。

他方、難しいことの一つは、多様な子どもと多様な側面で教師-児童・生徒としての構造に立脚して接する職業である教員、教員を養成するとは何を心がけることなのかという問いであると思えます。何をするかといった明確な表現が出来ない、せいぜい何を心がけるか。

この人類の知性の継承にかかわるこの問題を、近年の一つの方向に収束させようとする潮流に飲み込まれていくことを危惧しています。この潮流の中では、過度の競争原理と商業主義によってドリフトされた狭い視野の教員が望ましいでしょうから。

とはいえ、学生諸君とはゼミや卒業研究においてのみならず、バドミントンをしたり、たこ焼きのパーティーに呼んでくれたり、誕生日や退職の記念の会を開いてもらったり、9年間楽しい経験や思い出が出来ました。研究者を志した人生において、研究の楽しさに勝るとも劣らない思い出です。高い視座を持った賢明な社会人となって、活躍してもらいたいと願っています。

最後になりましたが、松楠会の皆様のご活躍とご多幸をお祈りいたします。

退職のご挨拶

田中 健二



本年3月に65歳で定年退職しました。松楠会の皆様方には長きにわたってお世話になりました。心より御礼申し上げます。お陰様で、心身ともにいたって健康なまま定年を迎えることができました。

教育学部での教員生活は、昭和56年(1981)5月着任以来、33年11か月となります。この間、学生諸君と学部のためにどれほど貢献できたか、いささか心もとない感もありますが、教育と研究に充実した日々を送らせて頂きましたことありがたく存じております。

教員生活を振り返り見ますと、教職を目指す学生諸君をはじめ、みずからの進路を見定めて日々の取り組みにいそしむ学生諸君とともに充実した時間を過ごせたことをつくづく幸せに思います。

着任以来一貫して教員養成課程の教員として勤務したため、教育現場で活躍する卒業生の皆様方とは、研究会をはじめ、いろいろな機会にお会いすることができました。

やはり教員にとっては、卒業生の活躍する姿に接するのが一番の喜びです。それは、教職に就いた人に限られません。それぞれの選んだ道をしっかり歩んで頂いておれば、教員にとってはありがたいことです。

定年後も、これまでどおり香川県に住んでおります。当分の間、従来通り各種のセミナー等、もっぱら生涯学習にいそしみます。機会があればまたお会いしているとお話を伺いたく思っておりますので、その折にはお声掛け頂きますよう、宜しくお願いいたします。

最後になりましたが、松楠会の皆様方の益々のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

定年を迎えて

藤田 和憲



今年三月末日をもって香川大学教育学部を退職いたしました。昭和52年4月1日に助手として赴任し、以来38年間にわたり数学教室に所属し、主として代数学を担当してまいりました。在職中には教職員の皆様をはじめ多くの方々からご支援を賜りあつくお礼申し上げます。

永年住んでいた研究室の片付けはかなり厄介でした。私物も沢山あり、昨年の暮れ頃から勤務日には毎回少しずつ荷物を自宅へ運び何とか間に合いました。持ち帰った荷物の整理をしていますが、その中には懐かしい書類や写真が多々ありました。着任して十年ほどの間は数学教室の教員もおおむね若かったためか各ゼミごとにそれぞれ小旅行に出かけていました。私には城崎、那智の滝、福井・金沢へのゼミ旅行が特に印象深い思い出として残っています。

3月7日に行われた私の最終講義に際しては、数学教室の先生方および数学研究室の学生さん大変なお世話をしていただきました。また、嘗てのゼミ生の皆さんをはじめ出席していただいた方々には心より感謝しております。最終講義『数学の不思議さ、面白さ』では、ゼミを通して学生さん達と一緒に組んだパソコンのグラフィックス・プログラムを実行しながら幾何的内容を説明しました。退職した今は自由な時間が多いので、数学の不思議さ・面白さを味わえる材料を引き続いて探そうと思っています。

わずか近年の4回ですが、「未来からの留学生」の講座『図形の不思議さー正多面体』を担当しました。小学生が各々展開図を折り各辺にテープを苦労しながら貼り付けて5タイプの正多面体を作り、そして真剣に頂点や辺の個数を数えている姿を見ながら、もっと前からこのような講座を開いておけばよかったと思った次第です。

4月以来、医療系の専門学校等で『数学』と『統計学』の講義を担当しています。健康のことも考え、このところ毎日一時間ほど山道や田舎の道を散歩しております。散歩中、絶え間なく聞こえる鶯や雲雀の鳴き声を楽しんでいます。また、香南町の由佐城で月に一回開かれている茶会にも散歩をかねて出席しています。

最後になりましたが、松楠会の益々のご発展と会員の皆様のご多幸をお祈りいたします。

感謝の3年間

池西 郁広



交流人事教員として、平成24年度から平成26年度までの3年間、香川大学に勤務する機会をいただきました。松楠会を始めとする香川大学関係の方々には、大変お世話になりました。香川大学とは、附属高松小学校勤務の時に続き、2度目のご縁でした。今回は、教員をめざす学生を直接指導するということとなり、任期となる3年間、実践の場である学校の様子などについて授業を担当させていただきました。教える立場ではありませんでしたが、逆に私自身が教えていただくことばかりでした。貴重な経験をさせていただき、本当に感謝しております。また、公立小学校の教員では関われない様々な人たちとの関わりをもてたことも財産となりました。しかし、何よりも、これから同じ職場で共に働くことになる学生たちと関わることができたことは一番の喜びです。

私は今、高松市立牟礼南小学校の校長職を任せ、学校づくりに励んでおります。近年の学校は、若年教員が非常に多くなっており、本校にも5年経験未満の教員が3名配置されております。大学で教えてきた学生と年齢の近い人たちですので、教室で子どもたちを教えている姿を見て、大変近い気持ちをもってまっています。つい学生に接するように声をかけることもあります。指導してきた学生と重なるところがありますので、丁寧になりすぎるかと思われるほど関わっているように感じます。

これからは、若年教員の数が増え続けてきます。香川大学出身者には、その若年教員のリーダーとして、香川の教育界を今まで以上に引っ張ってほしいと思っています。大学は離れましたが、今の職を生かし、香川大学に少しでも恩返しができるかと思っています。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、松楠会の皆様のご健勝とご多幸を心よりお祈り申しあげ、お礼のことばといたします。ありがとうございました。

香川大学教育学部、 ありがとうございました！

田中 聡



本年3月に香川大学を離れました。7年間お世話になった皆様の顔を思い浮かべると寂しい気持ちで一杯ですが、また新たなチャレンジをしていきたいと思っています。

7年前、神戸市の小学校教員から香川大学の教員に転職してから、自分には「想定外」なことが続きました。「生徒指導・生活指導」が必要な大学生に結構な頻度で巡り会うこと、それまでの小学校の45分授業から大学の90分授業にかわっても時間が足りなくなるなどがあること、案外自分が寂しがり屋であったこと、麺としての格・味は絶対そばの方がうどんより上という認識がひょっとしたら誤りではないかと疑いだしたこと…、などなど。

こういった「想定外」は、最初は適応するのに必死でしたが、保健体育講座の先生方を始め、教育学部の先生方・事務の皆さんに支えられて、今では「想定内」がかなり増えたと思っています。もちろん、お気に入りのうどん屋さんで食べる讃岐うどんが、蕎麦よりも美味しいということも今では「想定内」です。少しは経験値が上がったのかなと思っています。

4月より自分が長く教員をしていた神戸の地に戻り、神戸親和女子大学発達教育学部児童教育学科で新たなスタートを切っております。神戸市北区にある小さな私学ですが、教員養成に力を入れている大学です。香川大学で経験値を積み重ねていただいて「想定内」になったことを活かすとともに、新たな「想定外」を楽しみながらチャレンジしていき、関西の教員養成に自分なりに尽力しようと思っています。

7年間、本当にありがとうございました！

香川大学大学院教育学研究科 高度教職実践専攻(教職大学院) 平成28年4月設置予定

発達支援の理念に基づき、通常の学級における特別支援教育と道徳教育を特色とした専攻共通科目群を編成します。

コースとしては、学校力開発コース、授業力開発コース、特別支援教育コーディネータコースを設置する予定です。

教職大学院が従来の大学院と大きく異なる点は、①講義や演習等が学校現場の課題を解決するためのより実践的な内容となること、②課題を解決するために大学教員と協働的に取り組む実習が設定されること、③修士論文がないことです。

正式な設置が認められた場合は、平成27年秋に募集要項を配布予定です。



教育学部卒業生を送る会並びに 松楠会入会歓迎会を開催



岩島会長より卒業生への祝辞



高松支部 takamatsu



穏やかなひと時を

今年は春らしい日の訪れが四月の下旬になってしまいました。ここ数年、集中豪雨・台風・気温の上昇等、気候の様子が平年の状況と大きく変わる傾向が強くなっておりま

す。また、世の中の出来事も、従来の経験からの予測をはるかに超える(思わしくないほうに)ことが増えております。

そのためか、なんとなく落ち着かない、不安定な空気が私たちの周りに充満しているような気がしてなりません。

支部総会・懇親会に参加してみませんか。何十年という長い時間の積み重ねが醸し出す穏やかで、温かい雰囲気の中に身をおくことで、潤いや安らぎを感じていただけるものと思います。そうした輪が少しでも広がってくればと願っています。

27年度の高松支部総会では、指導要領の改訂にかかわる講話を大阪教育大学峯教授(附属平野小学校長)にお願いしております。

参加をお待ちしております。

山下 祐一(教育・昭和43年卒)

丸亀支部 marugame



平成26年度の丸亀支部総会は、8月18日(月)13:00より、西山徹副会長を来賓に迎え、丸亀市生涯学習センターで開催しました。

ご逝去なされた先輩への黙祷、米寿の会員に記念品の贈呈を行いました。議事は、25年度の事業報告、決算報告、監査報告、26年度の事業計画・予算案審議と、とどこおりなく進行しました。

総会のあとは、「家庭にあるもので、おもちゃをつくらう」のテーマで、工作をしました。乳酸菌飲料の容器を使ってのひっぱりブンゴマは、昔なつかしいおもちゃです。また、チューリップ型の風車を作りました。

型紙を切ったまではよかったのですが、はなびらの部分を作るのに苦労しました。分かっ

てしまえば簡単なのですが、型紙をねじって接着する方向がややこしく、時間がかかりました。でも楽しく、孫へのおみやげができました。

続いて行われた懇親会も、同期生、先輩・後輩の別なく、思い出話を語って、過ごしました。来年の再会を約した楽しい半日でした。

前田 伸雄(学芸・昭和40年卒)

坂出支部 sakaide



松楠会坂出支部の平成26年度の会員は、現職123名、OB139名の計262名です。22のOB地区と21の学校地区による構成で、事務局を附属幼稚園に置いています。

平成26年度は、附属幼稚園において、6月中旬に役員会を行い、6月29日(日)には坂出支部評議員会を開きました。

坂出支部総会は、9月7日(日)に開催いたしました。ご来賓といたしまして、本部より小比賀俊彦松楠会副会長様、田中栄美子学内理事様のご臨席をいただきました。総会においては、平成25年度事業報告・会計報告、平成26年度事業計画案・予算案審議、役員改選等が行われました。

総会に先立ち、教育視察を行いました。今年度は、東山魁夷せとうち美術館を訪れ、東山氏の作品鑑賞をいたしました。東山すみ夫人より、寄贈されました版画作品の中から、第Ⅱ期テーマ作品展として、「季節をまとう木々の装い」、「魁夷の筆あと／スケッチと版画より」を楽しむことができました。また、天候に恵まれ、眼前に広がる海に大きく瀬戸大橋を望め、美術館テラスにて、会員の方々の語り合う、ゆったりとしたひとときを過ごしました。

その後は、坂出プラザホテルで懇親会を行いました。近況等を語り合いながら、終始和やかな雰囲気

で会をもつことができました。香川大学よりお知らせのありました「ホームカミングデー」についての話にも、ご関

心をもたれる方もいらして、先輩の方々とのつながりを強く感じさせていただきました。

今後とも、支部会員の皆様や本部の皆様のご意見を賜り、充実した運営を図りたいと考えております。よろしくお願

いいたします。

倉野 晴代(教育・平成3年卒・香川大学教育学部附属幼稚園)



大川支部 — okawa



平成26年度松楠会大川支部総会は、8月24日(日)に、さぬき市クワパーク津田にて開催されました。松楠会本部から岩島卓男会長、植田和也理事をご来賓としてお招きし、24名の会員の出席をえて、盛大に行われました。

総会では、平成25年度の事業報告、会計報告、平成26年度の事業計画、予算案等について協議し、最後に役員改選を行いました。記念講演には、香川大学に関わる先生という点から、教育学部教授田中健二先生に「『讃岐国絵図』にみる近世初期の東讃岐の姿」と題して、ご講演をいただきました。

大川支部の平成26年度の会員数は、403名(OB会員217名、現役会員186名)でした。今後とも会員相互に連携を深めるとともに、先輩の先生方や本部の皆様の指導を賜りながら、会員の研修、懇親の場として充実した運営を進めていきたいと考えています。

木村 彰伸(教育・昭和57年卒・さぬき市立造田小学校)

小豆支部 — syozu

近年、小豆支部の会員数は現職、OB共に減少が続いています。平成26年度の会員数は現職65名、OB98名の計163名となっています。昨年より17名少なくなりました。



平成26年度松楠会小豆支部総会は、8月20日(水)に土庄町にある小豆島グランドホテル水明で開催されました。9名の会員が出席し松楠会本部から森美智子副会長、小豆支部担当の片岡元子理事のご出席を賜りました。総会では、会則に定める目的達成のための事業を実施する計画を検討して欲しいという意見がでました。例えば、何かの行事に協賛するとか、援助をするとかです。

総会に引き続いて懇親会が開かれました。来賓の森副会長のご挨拶、片岡理事の乾杯とつづき、会員みなさまの現状報告や県下の情勢、思い出話などで終始和やかなひと時をもつことができました。

今後とも、現職会員との連携を深め、先輩の先生方や本部の皆様のご指導を賜りながら、会員の研修、懇親の場として充実した運営をしていきたいと考えています。

三木 吉昭(学芸・昭和39年卒)

木田支部 — kita



平成26年度の木田支部の主な活動は、7月の役員会の実施と8月の総会・懇親会並びに教育講演会の開催です。8月28日の総会はトRESTA白山で開催し、ご来賓として松楠会本部より西山徹副会長様、西田智子学内理事様にご臨席いただき、ごあいさつやご助言をいただきました。また、総会後の懇親会では昼食をとりながら、久々に顔を合わせた会員同士で近況を報告したり、昔の思い出話に花を咲かせたりして、楽しい一時を過ごすことができました。午後からは会場を三木町文化交流プラザに移し、木田教育会・木田地区医師会との共催で教育講演会を開催しました。講師には鳴門教育大学教授の井上とも子先生をお招きして、「発達にアンバランスさのある子どもの理解と支援」と題してのご講演をいただきました。専門的な話から具体的な対応の仕方まで、幅広く私たちが知りたいことや学びたいことについて紹介してくださり、大変有意義な時間になりました。教育講演会には現職の幼稚園・小・中学校の教職員や保護者にも声をかけ、100名を越す参加がありました。今後も会員の親睦を深めたり、教育課題について学んだりする機会になればと思っています。

山地 茂之(教育・昭和60年卒・三木町立平井小学校)

香川支部 — kagawa



香川支部の平成26年度の会員は、現職会員76名、OB会員51名、計127名です。会員相互の親睦を図り、本部と連携しながら地域の教育振興に寄与することを目的として活動しています。

平成26年度は8月2日(土)に支部総会を開催しました。ご来賓として本部より大山正子副会長のご臨席をいただきました。

総会終了後、教育学部准教授植田和也先生から「子どもの心を育む」という演題で講演をしていただきました。大切にしたい五つの心得として

1 指導していることが自分ではできているのか。

- 2 環境を整えているか。
- 3 微笑みをもって臨んでいるか。
- 4 目を見て話しているか。
- 5 手を合わせているか。

喜び、願い、祈り、祝いの様々な場で。

「それにしても、大人としての品格」

改めて、心に染み入るお話でありました。

妹尾 長(教育・昭和34年卒)

綾歌支部 ayauta



平成26年度の綾歌支部の総会は、8月26日綾歌町の「みゆき」で本部理事長佐藤明宏様、副会長小比賀俊彦様をお迎えし、旧綾歌郡6町の理事等の出席で開催しました。物故者への黙祷に始まり総会行事を進行し、決議しました。その後毎年恒例の講演会に移り今年は香川大学教育学部の教授である佐藤明宏先生より、松楠会本部の活動状況や、大学の特色ある取り組み、そこに学ぶ学生諸士の様子や特性等をお話しいただき、興味深く拝聴しました。

これまでの総会行事の反省として参加者が限られており、活動内容も見直したらとの意見もあり、参加者の拡大を図り、会員相互の交流をより一層深めていくことにしました。

参加者が興味を持って取り組める内容にし、率直に話し合ったり相談したりできる場を設けたいと考えており、その際、現職会員の参加を大いに呼びかけたいと考えています。

また、現職会員とOBの現況報告や意見交換をする「支部だより」を発行し、交流をより深めていくことも考えております。

谷澤 俊紀(学芸・昭和40年卒)

仲善支部 tyuzen

仲善の仲間たちは、26年度OB216名・現職会員179名で、いつも笑顔がいっぱいです。年に2回の会合は、先輩に、そして後輩の人たちとお会いするうれしい時なのです。わたくしたちの会合は夏の総会とお正月の新年会の2回を役員のみなさん・会員の方々の協力で盛り上げています。

夏の総会においては、香川大学・仲善教育会・現職校長会の先生方をお迎えし、長寿会員への米寿記念品の贈呈・ご逝去なされた先生方のご冥福を祈り、総会を始めます。総会の議事終了後は、香川孝典先生のご指導の下、その年の干支の動物の竹細工作りを楽しみ、

可愛い置物に満足します。26年8月10日は台風11号により中止となりとても残念でした。

新年会は、岩島松楠会会長様・大西仲善教育会会長様・山本仲善小学校長会長様をお迎えし、開催しました。祝演では、田中先生の吟詠「九段の桜」・多田先生のヴァイオリン演奏「チゴイネルワイゼン」をお聴きし、最後は私たち全員で、香川大学歌・学生歌・松楠同窓生(高校3年生の替え歌)で盛り上げ祝宴の交流の場でも楽しく歌い満足し、「また来年ね」で解散します。この会は10年ほど前までは40人以上の方の参加でしたが、近年は、香大卒の若年者が減少したことにより参加者が少なくなり30人を割ることがあります。60代の会員の参加を募り、笑顔と元気を盛り上げようと努力中です。

小亀 恵美子(教育・昭和48年卒)



兵庫支部 hyogo



兵庫支部紫雲会は、年1回の定期総会を開催し続けながら、ここ数年は若い会員を対象にした懇親会も開催しています。

26年度の総会は、初めて姫路市にて開催しました。姫路の森先輩のお世話で、「イーグレひめじ」で、姫路城を眺めながらの総会でした。「松楠会」本部より、西山副会長をお迎えし、12名の参加者のもと、和気藹々とした雰囲気の中、懇親を深めることができました。たまたま、NHKの「軍師官兵衛」が放映されていて、「ひめじの黒田官兵衛大河ドラマ館」を見学することもありました。

懇親会は、参加者一人一人が近況を話していく中で、香川大学時代の思い出話にも花が咲きました。

若手懇親会を企画しましたが、若い方の申込みが0名のため、やむなく中止いたしました。内容、日程を再度検討して、27年度は実施したいと考えています。世代を超えた交流も目指している兵庫支部の素晴らしい取り組みではないかと自負していましたが…

27年度の総会は、6月20日(土)に神戸市三宮の「西村屋ダイニング」にて開催予定です。同じ釜の飯を食べて



仲間の出会いと縁を大事にしたいと考えています。また、若手懇親会を12月に実施したいと考えています。

兵庫支部(紫雲会)役員

- 支部長 池内 幹夫(昭和46年卒)
- 理事 木岡 正雄(昭和48年卒)
- 評議員 大坪恵美子(昭和49年卒) 宮崎 謙(昭和50年卒)
- 支部委員 大坪 和洋(昭和50年卒) 須加多由雄(昭和55年卒)
- 宮本早夕里(昭和61年卒) 山川 寿夫(昭和62年卒)
- 渡辺 一功(昭和63年卒) 松下ひろみ(平成15年卒)
- 松下 明申(平成16年卒)
- 顧問 細瀬 誠浩(昭和43年卒)
- 会計監査 益本 照美(昭和55年卒)

木岡 正雄(教育・昭和48年卒・一般社団法人兵庫教育会)

岡山支部 ————— okayama

平成26年度岡山支部総会は、平成26年8月9日(土)14時から、「ピュアリティまきび」に於いて開催され、講師に土井原 敏郎氏(元赤磐市教育長)をお迎えして、演題「考えるということ」についてご講演をいただきました。当日は、台風11号が接近し、JR瀬戸大橋線がストップした中、18名が集い開催されました。

「自分の脳みそを通さにかいけん！」知識偏重社会への警鐘を熱く語る土井原氏。



講演会の1コマです。確かに、マスコミでは事がある度に評論家が登場し、あれこれと知識の豊富さをひけらかすかのように無責任に語り、重宝がられています。いかにも知ったらしく右から左へ知識を垂れ流す、一億総評論家社会と言われて久しいものです。教育現場でも、本当に思考力を育てているのでしょうか？退職時に贈られた木曾檜に対して、一か月余り近畿圏の寺を巡り、諸仏像との出会いを通した学びをもとに「不動明王」を彫られた実践、等。講演をお聞きしながら、しっかり自分の脳を使って「考える」ことは、自分を前へ突き動かす原動力なのだと思わせていただきました。

今年の懇親会は、今年大学を卒業したピッカピカの新人会員の参加で盛り上がりました。彼の今後の活躍と会の発展を祈念しつつ、今年の総会を終えました。

横山 茂樹(教育・昭和51年卒)

ご案内

平成27年度 研究交流会・公開講演会

(附属教職支援開発センター、松楠会 共催)

日時●平成27年8月1日(土)13:00～17:00

場所●香川大学幸町北キャンパス オリース・スクエア

このたびは卒業生や修了生を交えた第2回研究交流会・公開講演会を昨年に引き続き「教育学部と香川県教育委員会との連携を基盤に」をテーマに下記の通り行います。無料で参加できますので、多数ご参加くださいますよう、ご案内申し上げます。

日程

- 12:30～ 受付
- 13:15～ はじめまして交流(出会いのあいさつ)
- 13:30～15:00 ワークショップ ポスター発表等
 - A「やってみよう学力向上への一歩」
 - B「ちょっと気軽に教育相談」
 - C「よりよい学級経営、生徒指導をめざして」
 - D「こんなこともできるよICT活用・情報教育」
- 15:15～16:45 講演 「体験活動を通した青少年の自立を目指す ～当たり前をしっかりと～」

講師 元香川県教育委員会教育長 田中壮一郎 様

- 申込方法 参加ご希望の方は、メール又は電話、HPに掲載の参加申し込み票をFAXにてお送りください。
- 申込締切 平成27年7月24日(金)午後5時必着
- 送付先 〒760-8522 高松市幸町1-1 香川大学教育学部附属教職支援開発センター FAX: 087-832-1689 E-mail: jcen@ed.kagawa-u.ac.jp
- 問い合わせ先 香川大学教育学部附属教職支援開発センター TEL: 087-832-1683

平成28年度松楠会支援事業の募集

高校生以下の児童・生徒を対象にした青少年の健全育成事業、教育活動事業などに対する松楠会支援事業を下記の要領で募集します。

- 1 支援する事業は、松楠会の会員が企画・実施の中心になっているもので、1事業につきおおそ30万円を上限とする。
- 2 提出書類 (1) 企画書 (2) 予算見積書 (3) その他参考資料等
- 3 応募締め切り 平成28年1月31日
- 4 提出先及び問い合わせ先 ... 〒760-8522 高松市幸町1-1 香川大学教育学部同窓会松楠会事務局
メールアドレス: syounan@ed.kagawa-u.ac.jp TEL: 087-832-1414

なお、同一事業の採択は、4回目までとします。選考結果については2～3月中に通知します。対象となる児童・生徒に募集案内チラシ等を配布する際には、この事業が松楠会(香川大学教育学部同窓会)の支援を受けていることを明記し、そのチラシを企画書または報告書に添付して提出してください。

平成27年度松楠会役員

*は、今年度新しく交代された方です。

役員

会長 岩島 卓男
副会長 森 美智子
大山 正子
小比賀俊彦
西山 徹

顧問 山神 眞一
理事長 佐藤 明宏

学内理事 山神 眞一 藤田 尚史* 坂井 聡 西田 智子 貞廣美津子 片岡 元子
山本木ノ実* 植田 和也 塩井 実香 中島栄美子 大浦みゆき 高橋 智香

附属理事 赤熊 俊二 (高松) 樽本 導和 (坂出)
(但し、谷本・高木の学内理事期間は、人事交流の期間とする)



会長、副会長、理事長、顧問

支部事務局

	郵便番号	住 所・勤務校	担当者
高 松 支 部	761-8084	高松市一宮町672-1 高松市立一宮小学校	田中 義人*
丸 亀 支 部	763-0093	丸亀市郡家町3690 丸亀市立南中学校	菅 佳久*
坂 出 支 部	762-0031	坂出市文京町1-9-4 香川大学教育学部附属幼稚園	倉野 晴代
大 川 支 部	769-2312	さぬき市造田是弘688-1 さぬき市立造田小学校	木村 彰伸*
小 豆 支 部	761-4152	小豆郡土庄町黒岩729-1	三木 吉昭
木 田 支 部	761-0702	木田郡三木町平木710-1 三木町立平井小学校	山地 茂之
香 川 支 部	761-1611	高松市塩江町安原上231 高松市立塩江小学校	上田 哲也*
綾 歌 支 部	762-0081	丸亀市飯山町東坂元1447	谷澤 俊紀*
仲・善 支 部	764-0026	仲多度郡多度津町南鴨366-3	武田眞智子*
三・観 支 部	768-0060	観音寺市観音寺町甲2558-1 観音寺市立観音寺小学校	三野 正
東 京 支 部	279-0022	浦安市今川4-12-28-1	菊池 健二
愛 知 支 部	470-1167	愛知県豊明市栄町西大根99-24	古田三千年
大 阪 支 部	567-0884	大阪府茨木市新庄町6-9	信垣 綾子
兵 庫 支 部	651-2277	兵庫県神戸市西区美賀多台4-7-20	木岡 正雄
岡 山 支 部	709-0221	岡山県備前市吉永町金谷647-2	横山 茂樹
徳 島 支 部*	(平成27年度に創設予定です。)		

事務局報告

平成27年度評議員会(総会)の報告については、松楠会ホームページをご覧ください。

平成26年度 松楠会支援事業

- 竹細工工作教室 (全10回) (仲善支部 香川 孝典、森江 照)
- 寛学による演劇体験 (代表 高松支部 六車 健)

平成26年度 学生支援事業

- 未来からの留学生 (平成26年10月12日 香川大学幸町キャンパス)
- わくわくコンサート (平成27年2月11日 サンポートホール高松大ホール)

平成26年度 表彰者

- 坂井 聡 ユニバーサルデザインの国際的な賞である『IAUD アワード2014 未来世代部門 金賞』を受賞 2万円
- 植田 和也・谷本 里都子 他 『未来への扉を拓く道徳教育』 2万円

平成26年度 助成者

- 森 真佐純 世界物理教育学会 (アルゼンチン・コルドバ) にて発表 10万円

松楠会基金の会員表彰制度をご存じですか？

本を出版されたり、発表会・展覧会の開催、競技会等で優秀な成績を挙げられたりした会員の方々を表彰しております。該当者は、ぜひ事務局までお知らせください。また、情報をお持ちの方もご一報を！



教育学部の一つの使命

—子どもの育みを中心にした豊かな社会を築くために—

公益財団法人日本教育公務員弘済会香川支部 専任幹事 藤本 泰雄
(香川大学教育学部附属教職支援開発センター 客員教授)



教師生活の最後の勤務校となった高松市立栗林小学校には、毎年、複数の教育学部生がインターンシップに来ていました。たった1週間でしたが、教員としての採用が決まっている4年生が、卒業直前に自ら希望して公立学校で最後の実地学習を行う制度です。学生時代の私にはひとかけらもなかった真摯で熱心な態度、そして課題意識をもって学ぶ姿に驚きさえ感じたことを覚えています。その栗林小学校には、私が遠智会(香川大学合唱団OB会)の会長を務めさせてもらっている香川大学合唱団に来てもらったことがあります。卒業式がちょうどクリスマスイブの日にあたるということで、一部を除いた教職員にも、もちろん子どもたちにも内緒で、校長先生からのクリスマスプレゼントとして入場し、「宇宙戦艦ヤマト」など子どもたちの大好きな歌を数曲歌ってもらいました。サプライズに湧き上がる子どもたちの歓声と笑顔が忘れられません。合唱団は定期演奏会を終えたばかりでありましたが、早朝から、子どもたちとのふれあいを見事に演出してくれて、とても頼もしく感じました。私にとっても40年近く前の在団当時の思い出が蘇るひと時でした。

そして、今、「教職実践集中講座」を担当する客員教授として、再び教育学部キャンパスに足を運ぶ自分がいることに幸せを感じています。

私が担当するのは教職に関する内容ですが、インターンシップの学生から受けた印象と変わらず、授業で出会う学生の多くが、教壇に立つ日を夢見て懸命に取り組んでいる姿勢に、こちらも応えねばと悪戦苦闘しています。私は客員ですが、教職関係の授業に携わる先生方は、それぞれの学年段階や教育実習等の時期を踏まえた授業を構成されるとともに、授業形態そのものが、現場に出た時に役に立つ方法を工夫されて取り組まれており、卒業生の一人としても有難く思っています。

その中で、4年生が後期に受講する「教職実践演習」の最後に、受講生が一堂に会した場で、担当の先生から学生たちに一言をと促されたので次のようなことを話しました。「もう採用は決まっている人もいるだろうが、教師として子どもに向き合って、もし自分は教師には向いていないと思ったら、すぐに教師を辞めなさい。教育学部で学ぶみなさんに酷な言い方かもしれないが、それが子どものためにも、そして何より自分のためになるから。」当然に、すべての人たちが教師としての人生を堂々と歩んで欲しいと切に願っているのですがそのように言いました。しかし、教師になるという夢はあきらめても、子どものためになることをとか、子どもの笑顔を見たいという望みは捨てて欲しくはありません。子どもの育みを中心にした豊かな社会を築くためにできることは、教師にならなくてもたくさんあります。その一助になれる社会人に、親に、大人になってほしいと願いながら、今年度も任された授業に全力で取り組みたいと思っています。



その中で、4年生が後期に受講する「教職実践演習」の最後に、受講生が一堂に会した場で、担当の先生から学生たちに一言をと促されたので次のようなことを話しました。「もう採用は決まっている人もいるだろうが、教師として子どもに向き合って、もし自分は教師には向いていないと思ったら、すぐに教師を辞めなさい。教育学部で学ぶみなさんに酷な言い方かもしれないが、それが子どものためにも、そして何より自分のためになるから。」当然に、すべての人たちが教師としての人生を堂々と歩んで欲しいと切に願っているのですがそのように言いました。しかし、教師になるという夢はあきらめても、子どものためになることをとか、子どもの笑顔を見たいという望みは捨てて欲しくはありません。子どもの育みを中心にした豊かな社会を築くためにできることは、教師にならなくてもたくさんあります。その一助になれる社会人に、親に、大人になってほしいと願いながら、今年度も任された授業に全力で取り組みたいと思っています。

松楠会ホームページ

松楠会

検索

<http://www.ed.kagawa-u.ac.jp/~syounankai/>

編集後記 ■ ■ ■

- 原稿執筆にご協力をいただきました皆様のおかげで会報を発行できますことに深く感謝申し上げます。今後も松楠会並びに教育学部の状況や活動を見守り積極的にご参加いただくために情報を多彩にお届けしてまいりたいと考えております。松楠会HPにも研究交流会や若年会員活性化事業等についても掲載しておりますので是非、ご覧いただけますようお願いいたします。



松楠会報

第52号

発行日 平成27年7月20日

発行人 岩島 卓男

佐藤 明宏

編集 植田 和也

片岡 元子

山本木ノ実

稗田 美嘉

塩井 美香

香川大学教育学部同窓会 松楠会